

【実践報告4】

表現遊び発表会につながる「私」の思い

春木保育園 2歳児担任保育士 菅原律子

1. はじめに

2020年4月、2歳児は、進級児16名、新入児2名でスタートする。新型コロナウイルス感染症で、保育士もマスクでの保育。県からの緊急事態宣言が発令される。

「元気がいっぱいなんでも挑戦しようとするクラスになればいいな。」「じっくり落ち着いて取り組もうとするクラスになればいいな。」「友だちに優しいクラスになればいいな。」と願う。当園の保育目標でもある願いを胸に留め、同時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識していこうと思いながら新年度をスタートさせた。「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を焦点に充て、12月中旬に開催する「表現遊び発表会」を見据えて2歳児の1年間の姿を追ってみることにする。

2. 期別ごとの様子

I期（4, 5月）

○子どもの姿

・進級し、絵本を聞く時、じっと話が聞けない。どこかで何か違うことをしている。友だちと話している。宙立ちで話を聞く。急にどこかに行く。話をやめない。

○保育士の思い

・関心を示すには？環境を工夫するには？座って話を聞けるようにするにはどうしたらいいのか？

○援助

・読む保育士以外にもう一人、必ず一緒に話を聞くようにする。
・みんなで絵本を見て、「楽しい」「おもしろい」と思い、興味が持てるような絵本を選ぶ。1歳児からの延長で、分かりやすく、興味が沸く本を選ぶ。「せなけいこシリーズ」「へんなかお」「のんたんシリーズ」等。

○考察

・少しずつ、話し手を見る姿が多くなり、どこかにふらっと行く姿はほぼなくなる。
・なかなか興味を示さなかった子どもたちも親しみやすい絵本を繰り返し読むと興味を示し、話を聞こうとする姿が増えていった。

II期（6, 7月）

○子どもの姿

・新型コロナウイルス感染症の関係で、全員出席が少なかった2ヶ月。
・少しずつクラスも活気づくようになる。
・絵本を読むと宙立ちで本を見る。友だちと話している姿はある。
・手遊びや興味ある話をするとみんなが話し手の方を見る。

○保育士の思い

・話し手の方を見るように、テンポのいい手遊びをしたり、ペープサートやパペットを使ったりして興味をひいてみよう。
・保育士が前に立つと何か面白いことが始まると子どもたちがワクワクするようにしてみよう。

○援助

・テンポのいい手遊びをしたり、ペープサートやパペットを使ったりして、子どもたちがこちらを見るようにしてみる。

○考察

- ・話を聞く姿が増える。子どもたちの目が輝いている。
- ・話をする前に手遊びやパペットを出すと子どもたちの姿勢や目の輝きが良くなっている。

Ⅱ期（8月）

○子どもの姿

- ・ピアノの曲に合わせてたり、歌ったりしながら歩くことを喜ぶ。
- ・ピアノやCDに合わせて歩いたり、音を止めるととまったりするリズムカルな動きを保育士と一緒に楽しむ。例えばピアノが二回鳴ると座る。保育士がするとすぐに真似をする。面白くてそのまま歩き続ける子もいる。友だちと同じ場にいることを楽しむ子もいる。いろいろな姿がありクラス皆で楽しんでいる。

○保育士の思い

- ・曲に合わせて自分の思いが出せると良いな。自然な姿が出ると良いな。

○援助

- ・子どもたちがリズムにのりやすくて、好きな曲選びをする。
- ・子どもたちからつぶやきや思いや動きに沿って、保育士も一緒になって楽しむ。
- ・生き生きとした姿が表現できるような「上手いね。」「かっこいいね。」言葉かけをしていく。

○考察

- ・曲に合わせてするリズムカルな遊びは、とても楽しんでいつもする。
- ・興味ある曲に合わせて体を動かしたり止めたりすること事は、すぐに真似をして遊び、楽しんでいる。
- ・友だちや保育士のしていることに興味を示し、同じようにして楽しもうとする。

Ⅱ期（8月）

○子どもの姿

- ・絵本の「おにのこ にこちゃん」の「いや」「(自分で)やる」の場面をみんなで見て、笑う。
- ・「おもしろいなあ」「いやっていったなあ」等思い思いのことを言う。

○保育士の思い

- ・日頃から「やりたくない」や「やる！」という自己主張する姿があるな。
- ・絵本を見てよく笑ったり、絵本の言葉を一緒に言ったりして、とても興味があるんだな。
- ・秋の運動会でこの曲を取り入れてみよう。

○援助

- ・日頃の姿から、クラスにあった絵本を選んだ。
- ・一緒に絵本を見ながら楽しむ。
- ・絵本を見て、自分の思いを表現している姿を受け止めていった。

○考察

- ・その絵本の曲があり、時々クラスで踊る。とてもこの曲を好み、喜んでこの曲に合わせて踊った。
- ・興味ある絵本を見ていると自分の思いを言う姿が多くみられる。

Ⅲ期（9月）

○子どもの姿

- ・みんなが集まって保育士が話をする時、話が聞けない事もあり、子どもたち同士で話をしている。
- ・きちんと座っている子もいる。
- ・「その座り方がいいね。目もいい。お話が聞ける感じ」と保育士に言われると嬉しそう。また、それを見ていた、他の子がその友だちの真似をして座ろうとする子がいる。

○保育士の思い

- ・座っている姿がクラスに伝わると良いな。増えるといいな。
- ・コロナ禍の中、進級当初から職員はマスクをしているが、顔の表情が分かりにくく、声が通りにくい。

絵本を読んだり、子どもと会話したりする時は、表情豊かにできるだけしよう。

- ・マスクをして表情豊かに話したり声掛けしたりするのは、限界を感じる。

○援助

- ・クラス内ではマウスシールドを使い、表情豊かに絵本を読んだり、うたを歌ったりする。
- ・今の気持ちを言葉と顔の表情で表現するようにする。

○考察

- ・少しずつお尻を付けて落ち着いて話を聞く姿が増えてきた。その事を十分に認め、その姿が増えるように引き続き援助する。
- ・子どもたちは、保育士の表情が分かり、笑顔が増えた気がする。
- ・他児に関心があり、真似したい、やってみようという気持ちが出てきている。
- ・子どもの姿を知らせると、子どもたちの中で広がっていく姿がある。
- ・コロナ禍の中で、感染症対策を考えながら、マウスシールドをし、表情豊かに、保育をすることの大切さを感じる。

Ⅲ期（10月）

○子どもの姿

- ・「3匹にのやぎのがらがらどん」や「てぶくろ」や「3匹のこぶた」や「7匹の子やぎなど」等少し話の長い絵本を見る。

○保育士の思い

- ・興味を示して見るといいな。
- ・予想通り、よくこの絵本を見たなあ。

○援助

- ・イメージが湧きやすい絵本を読む。テンポが良かったり、声を変えて言う所が面白そうだったりするのを選ぶ。

○考察

- ・少し長い絵本でも見るできるようになり、成長を感じる。
- ・文の長い絵本を喜んで見たり、言葉の調子を楽しんだりしている。



Ⅲ期（11月）

○子どもの姿

- ・園庭から部屋に入る時は、全員で、「てくてくてくてく」と言う保育士の言葉に合わせて歩く。
- ・保育士の後ろを好きなように歩く。「ぴたっ」と先頭の保育士が言い、歩くのをやめると、真似して一緒に止まる。「雷だあー」と言うのを聞くと、座って頭を隠す保育士の真似をする。

○保育士の思い

- ・歩いている途中で、合図で止まったり、座ったりができるかな？
- ・みんなでする姿がとてもかわいいな。

○援助

- ・後ろを振り向き、様子を見ながら歩く。
- ・夏からのピアノやCDに合わせて遊ぶことを活かしている。
- ・ジグザクや細いところ等を歩いて子どもたちの興味がわくようにする。

○考察

- ・とても喜んで、みんなが参加する。
- ・保育士の声に合わせてする姿がある。
- ・保育士や友だちのしていることをみんなで模倣して楽しんでいる。



Ⅲ期（11月）

○子どもの姿

- ・10月誕生日会で保育士が演じる「がらがらどん」の劇を見た。
- ・次の日から絵本やペープサート等で「がらがらどん」を見たり、聞いたりする。
- ・よく見ていて、ちょっと前のめりになっている子。読んでいるページごとに「ことことっていつているね。」「こわいねえ。」と言っている。何度も見たり聞いたりしていると「ちいさいがらがらどんでなあ。」「かたことかたことっていうよなー。」「こわいなー。」等友だち同士で語り合ったり、一緒にセリフを言ったり、セリフのかけあいをしたりする。

○保育士の思い

- ・とても話を聞いている。
- ・自分たちのイメージがついているな、すごいな。
- ・なりきってセリフを言っている。

○援助

- ・このテンポやリズムの感じがとてもこのクラスの子どもたちに合っているようなので、遊びの中でやっけていき、楽しむ。
- ・子どもたちの思い（言葉やセリフ）を受け止め、思いを出す（表現する）ことの楽しさが味わえるようにする。

○考察

- ・保育士も一緒にやってみると、一層表現する意欲が増す。
- ・劇ごっこを繰り返すことで、自分の思いを楽しんで表現する姿もある。

Ⅲ期（12月）

○子どもの姿

- ・「がらがらどん」になりきっている。
- ・登場人物全部の役になりきる。
- ・カスタネットや鈴やタンバリンの音に合わせて、登場する足音も自分たちで言いながら歩く。
- ・遊びの中で絵本の中のイメージを膨らまして「もっとおおきいやぎがくるよ」「ちょっとまって！（手を前に出しながら）」や自分たちで考えた「まけないぞ」「えいえい」等の思いをセリフにして楽しんで言う。
- ・トロールとの掛け合いをし、自分の思いを出すこと楽しむ。
- ・小さいやぎなら足を小さく上げて出てきたり、大きいやぎなら足を大きく上げて強そうに出てきたりしてなりきって登場する。

○保育士の思い

- ・この話がとても好きなので、発表会では、子どもたち全員が「がらがらどん」になってみよう。
- ・みんなどの役でもできるな。
- ・役になりきって、色々なセリフを自分たちで考えている。
- ・絵本を見て、ちいさいやぎ、ちゅうくらのやぎ、おおきいやぎのイメージを膨らましているなあ。
- ・やぎの大きさを表した楽器の音に合わせて歩くということ（表現）ができるのでは。

○援助

- ・遊びの中で、「がらがらどん」の情景をイメージして、子どもたちから出た「もっとおおきいやぎがくるよ」「ちょっとまって！（手を前に出しながら）」「まけないぞ」「えいえい」等のセリフに対して「その言葉良いね。」「かっこいいよ。」と等言い、子どもたちの言っているセリフをすべて受け止めた。
- ・「がらがらどん」をしていく中、セリフや動きなど理解できるように促していった。
- ・日頃の遊びの中で「誰だおれの橋をかたことさせるのは！！」「ほくです。」等のトロールとのかけあいを喜んでしていたので、一緒に楽しんだ。
- ・なりきって表現している姿を「いいよ。かっこいい。声がとっても良かった。」等言い、次につな

げていくようにした。

○考察

- ・子どもたちの思いがよく出た発表会の劇になった。
- ・絵本を見て、劇を見て、ペープサートを見て、イメージを膨らませて、自分たちの「がらがらどん」になりきってしていた。
- ・とても喜んで、役になりきってセリフを言っていた。
- ・「(がらがらどん) つもり」になって遊ぶことを楽しむことができた。
- ・伝えたい気持ちが膨らんでいる (とてもある)。
- ・リズム感のある言葉で共感したり、一体感を楽しんだりしている。

3. この活動を通して、気づいた子どもの思い

*ちょっとしたエピソード

A児が、発表会の練習中どこかへ行ってしまう。「がらがらどんしよう」と言うが「いや」と言う。どうしたものかと思い、手をつないでみんながいる所へ行こうとするが、「いかない」と言って、動かない。それを見ていたほかの子も真似をする。

発表会ということに気を取られて「A君はどうしたいのだろう。」という気持ちになれなかった自分。こうなるとA君を無理やり戻したくなるし、焦る気持ちと「またや」という気持ちになってしまった。その時点では、他児を元に戻して、始めることにした。始めるとA君は、横から見ている。「する?」と声をかけると「する。」と言う。A君の出番に間に合い、みんなと一緒にすることができた。「がらがらどん」が終わってA君に「上手く出来ていたよ・・・初めから一緒にしていたらよかったのに。」とまた、考えずに声をかけた。A君は「うん」というが、A君はもしかして、保育士にかまってほしかったかもしれない。A君の本当の気持ちをすぐに察知できず、不意な一言を発してしまったことを反省。みんなと一緒にできたことを喜んだ方がよかったのではないか。A君と一緒に楽しさを共有できたことをまず、伝えることが大切だったのではないかと思った。

4. おわりに

一年間の姿を期別、月ごとに追ひ、振り返っていくことで、様々なことに気づかされた。

話をする前に手遊びやパペット等を等で子どもたちの気持ちを引き付けることや親しみやすい絵本を表情豊かに繰り返し読むことで、子どもたちの興味、関心がわく環境づくりができた。又、自分たちが見たり聞いたり感じたりした「がらがらどん」を何度も繰り返す中で、想像力を膨らませることができたのではないかと思う。

絵本の世界によって子どもたちが影響するものは大きく、保育士が様々な環境を作り、一緒にやることで、子どもたちは、表現する楽しさを味わっていく。この経験をこれからも積み重ねるとともに、豊かな感性を見出すことを考えていける「自分」でありたいと思う。

*付 記

今年にはコロナ禍といういつもと違う暮らしの中で、園生活も様々なところで変化があり、活動(行事)の制限や内容の変更等をせざるを得ない状況が続いた。特に行事では、日頃の子どもたちを保護者の方にみてもらうという点が難しく、悩んできた。「表現遊び発表会」でも同じで、例年とは違う設定で実施した。保育室を会場にすることで、子どもたちは普段の姿で表現を楽しむことができ、特に未満児クラスにとっては、泣かずに笑顔で参加することができた事は大きな自信につながったと思う。いつもと違う発表会で、戸惑いもあったが、そのことを受け止め、発表していく子どもたちはまた一つ成長をしたと思った。保護者の方にはDVDを進呈した。

